山とスキー

第十六號

札幌 山とスキーの會 發行

大正十年六月七日第三種郵便物認可・大正十一年六月十四日印刷納本・同月十五日發行

THE JOURNAL
of the
MOUNTAIN AND SKI CLUB

NO.16 June,1922 SAPPORO JAPAN

大正十年六月七日第三種郵便物認可
大正十一年六月十四日印刷納本
大正十一年六月十五日發行

（毎月一回十五日發行）

山とスキー 第十六號 定價金參拾錢

登山に必要な各種の用具

小樽區稻穗町大通
梅屋運動具店
電話九八六番 振替小樽七〇番

槍岳より穂高を望む　松方義三郎

行發日五十

第十六號目次

記事

シーロイファーは如何に地圖を見るべきか……マーセル・クルツ　大島亮吉譯（一）
冬の乘鞍岳より上高地へ……高橋昂（五）
ハルツ紀行……ハイネ作　青田周川譯（一〇）
彙報抄錄……（一三）

圖版

槍岳より穂高を望む……松方義三郎（一）
傾斜度標準圖……松方義三郎（五）
赤澤岳の下より槍を望む……松方義三郎（一一）
冬の乘鞍岳……高橋昂（一八）

シーロイファーは如何に地圖を見るべきか

S. S. V. マーセル、クルツ
慶應義塾山岳部　大島亮吉譯

私が、こゝに說かんとするものは單に普通のシーロイファーの爲のみでなく、シーロイファーであると同時にまた相當なアルピニストであるものに對して最も必要なことなのである。普通のスキーのテクニックは其の大部分をスキー術の書籍でも學べやうが、然しアルピニズムスに到つては僅かに豐富な經驗と、吟味されたフユーラー或ひは相當の技術を有つた友人の指導の下に行はれた數多の Tour とに依つてのみ始めて獲得し得るものであらうと思はれる。然し私の說く新登山法 Neuen Alpinismus は相當の經驗を積んだアルピニストならば誰でも一歩を踏みだしてこの方法の原理に自信をつけることが出來るものである。そしてその特別の登山法とは在來のものと違ふばかりでなく、今日まで實に確として動かぬと言はれる價値あつた登山法の原理の修正を促してゐるのである。その新法とは即ちその大部分を地圖の研究に基いてゐるのである。

× × × ×

わが、瑞西のシーロイファーは自己の優れた位置にあることを秘かに幸福に思はなければならぬ。それは美しき山岳の麓にあつて近隣の國々のシーロイファーの羨むやうな立派な完備した自國の地圖を有つてゐるからである。Siegfried-Atlas (Topographische-Atlas) は實にその明晰、凹凹の表はし方、精密の諸點に於て他の如何なる國の官製地圖も及ぶところ

ではないのである。そしてその五万分の一縮尺のものが、シーロイファーの行路を定めるに役立つ唯一の地圖である。これには二万五千分の一縮尺のものもあるが、僅かに山岳地としては Jura, Huegelland, Voralpen に亘つてゐるばかりで十万分の一縮尺の Dufourkarte は全瑞西を包含するが精密な地形を研究するには全く適してゐない。故に未だS.S.V.がシーロイファーのために精密な系統的な行路を詳細に記したる Führer (案内書) の全卷を發行せぬ間はこのジークフリート、アトラスがシーロイファー殊に是迄迚り來つた既存の登山法によるグラートの登路をかなぐり捨てゝ新らしい登路から新らしい山頂を目がけてスキーの先端を向けると言つたやうな Führer には缺くべからざる援助を與へるものである。この地圖をよく理解し得てその細微な諸點までも全くその實際の地形を見る如くになし得るものにとつては、地圖は恰かも眼前に開かれた書籍を見ると同じ樣に、多くの登山の問題を極めて容易に解決せしむることが出來るのである。シーロイファーが殆んどその一行の案內を一任する職業的なベルグフユラーさへこの新登山法の原理は知つて居らぬのである。彼等は單なる保守的な熟練者と言ふのみで、たゞ夏季に通る路や夏季に於ける山岳の狀態に詳しいのみで、冬季の深い積雪が普通の登山法を全く無効にすると言ふことは考へてゐないのである。

地圖が普通のアルピニストに必要缺くべからざるものとすれば、シーロイファーにはそれにも增して貴重なものである。夏季にはアルピニストは常に殆んど容易に識別出來る小徑を辿つてゐるが、この小徑は多くの案內書に詳細に載せてあるのである。故に夏に於てアルピニストの頭腦を占領する問題の唯一の難點は實に岩壁、山稜あるひは絕頂の通過出來るや否やと言ふ事にのみ存するのであるが、しかしこれ等のことに就ては地圖もまた全然單なる想像的援助を與へるのみである。何故ならばその最も重要な岩壁、山稜、絕頂の部分は平面圖法の爲に地圖の上に於ては極めて不充分にしか表現し得ないからである。併しシーロイファーには急峻な斜面と岩壁とは何等の興味も刺戟も與へないのである。寧ろそれ等を可能的避ける程である。然してシーロイファーの特に望むところのものは、村から谷、谷から氷河、氷河から到達しやうとする Paßhöhe までスキーに依つて滑走するための地形であつて、この地形こそ彼にとつて非常な精密さと、時には非常な熱心さとを以て行はれる研究の對象なのである。高く〳〵雪は、頂上まで横はつてゐる。シーロイファーは先づ以つて谷の最後の村からその目的地に達して再び歸るまでの行路の全体を考へなければならぬ。こゝに於てシーロイファーが、他の殆んどすべてを除いても注意しなければならぬことは、その地形的形狀とその傾斜の二つである。

實に地勢の形狀と傾斜とはシーロイファーにとつて根本

た。そして學究某氏の如きは確かにまだ床に入つてゐて例 Zell)(此語は大學を指して諷刺的にいふ) から外に出た事

的の意義を有するのである。

勿論いまこれを讀むシーロイファー、アルピニストの多數に既に充分に地圖を理解する程度に修練が出來てゐることゝ思ふ。然し乍ら普通のスキー術、亦は登山術には全く關係のない、即ち新登山法の特色たる一根本條件が未だそれ等の人々には缺けて居るのである。それは地圖をシーロイファーの眼で見て解るといふまでに至らなければならぬ。即ちスキーにて滑走し乍ら、自分はいまこゝを通つてゐる――こゝを通つてゐるのでないかゝ指を以てそれを地圖の上に示し得る程度までにならなければならぬのである。そしてこの新らしい直觀法を容易に獲得するには次の方法に依るのが最も早く、またよい結果を齎らすのである。

A. 常に同一種の地圖(T.A. 1:50,000)即ち水準線の間隔と縮尺度の同じ割合にある地圖を用ゆることである。そうすれば間もなくこの兩者が同じ割合にあることに慣れて來るのである。

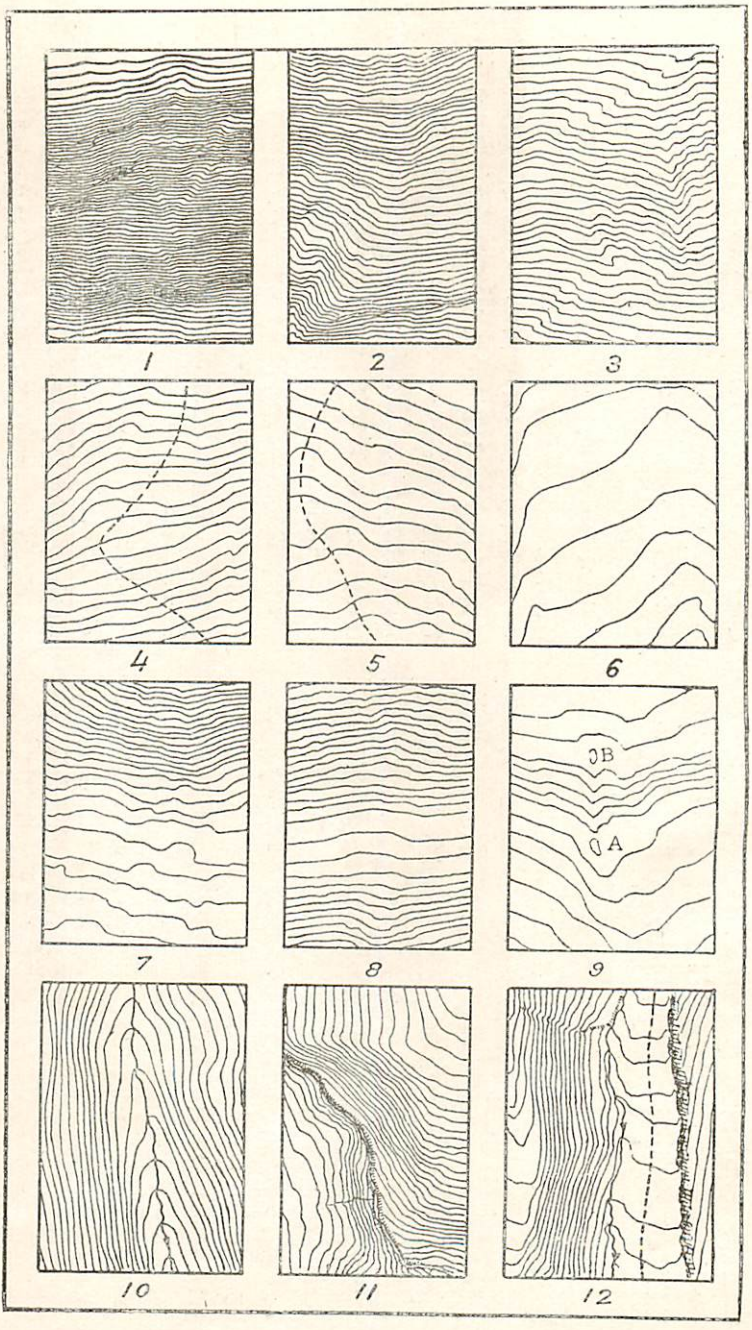
B. シーロイファーは一日の中にあらゆる傾斜度を有する斜面を滑走してその滑走し得べきや否やを實驗すれば、こゝに於て未知の斜面と既知の斜面とを地圖の上で比較する事が出來るやうになる。これは甚だ簡單なことではあるけれど、非常に有益な結果を生むものである。この實際の斜面と地圖の上に表はされた斜面とを比較することは、それをすればするほど自己の經驗を豐富になし、信頼出來る確かな視力を獲得するに至るもので、即ち如何なる場合に於ても、地形の滑走可能度を可成り正確に評價し得る目分量をなし得ることになるのである。

然し乍らこの直觀法の觀察のうちにもひとつの重要な條件がこりいれられねばならない。それはスキーの滑走可能度を決定するに於て重大な要素のひとつたる雪の性質である。例へばこゝに三十度の傾斜を有する斜面があるとする――その雪が下層の地表亦は雪面に密着してゐるならば何等の危險なく滑走出來るが、若し雪質が雪崩を惹起する傾向を有するならば決してその斜面は滑走することは出來ないのである。併し雪質、雪崩の問題は唯これだけで盡きてゐるのではない。雪質の研究、雪崩の研究はスキー登山の場合に於ては實にこの地圖の研究と同じ程度の重要さを有するもので、論ずれば悠に大なる一編をなすものである。

さて前述せるシーロイファーの目分量 Augen Mass とは一體何であるかゝ言ふことの説明として次の樣な圖解は有益であろうゝ思はれる。此等の諸圖はジークフリート地圖の五万分の一の山岳地方のうちからそれと同じ縮尺度ゝ曲線距離を以つて、急な、或ひは緩やかな斜面、完全な或ひは不完全な地形を示し、且地圖上に於ても實際の地形に於ても到る處に於て見らるゝ地形を示す目的で轉寫されたのである。

傾斜標準圖（第一圖より第六圖まで）
地形參考圖（第七圖より第十二圖まで）

ゼーグフリート、アトラス（1:50,000）



注意—各等高線間の距離は三十米突とす。尙詳細は本文につきて就照せられたし

最初の六圖は言はば基礎的な傾斜度標準で、それらは殆んど規則的變化のない傾斜を表はして居り、その傾斜度は第一圖から第六圖まで、最初の極めて急峻な斜面から次第にその傾斜度を減じてやゝ緩やかな斜面に到つてゐるのである。地圖上の斜面の傾斜度と實際のその斜面の傾斜度を比較して直觀法の目分量を養成せんとするシーロイファーは、いち〳〵その研究せんとする斜面、地形をこの基礎的な傾斜度標準圖に比較されるがよい。私はそれらの諸圖に詳しい説明を加へよう。

第一圖より第三圖までに示した斜面は實際に於てシーロイファーの滑走域 Abfahrtstrecke に屬してゐないものである。斯の如き斜面で比較的狹少な面積のところを滑走しようとしたら必ず危險に會ふことにならう。故に此等の圖に示された傾斜度をある斜面が有つてゐたら、たとへ他に如何なる好き事情があらうとも直ちにこれを避けて他のより緩やかな斜面にうつらねばならぬ。此等の斜面の傾斜度は常に雪崩の惹起すべき狀態さへあれば、必ず雪崩を起すのである。

第四圖と第五圖はこれを避くべきものと滑走し得べきものとの中間に存する程度のものである。これはこの斜面につゞく周圍の斜面、地形の如何と雪質の如何に依つてその滑走可能度を決定せらるべき程度の斜面である。

第六圖は如何なる事情の下に於てもシーロイファーの何等の危險なく滑走し得べき理想の斜面である。

雪の性質はすべて力學的と氣象學的との原則に從つて變化し、前者は後者に從屬してゐることは一般にシーロイファーの熟知する所であらう。故に氣象學的狀態を研究すれば吾々シーロイファーの研究問題は完成されることになるのである。併し乍らそれを簡略にするためにこゝに於ては先づ最初に規則的狀態を假定して研究することにしよう。

いまその氣象學的狀態の規則的變化の假定の下に基いて今度は此等の基礎的な傾斜度標準圖を觀察してゆくことゝする。勿論斯くの如き假定は自己の行路を研究する時原則として看做さなければならぬものではあるが、その登山なり旅行の始めに當つて他のある事情が入つて來たら、その計劃を變更しなければならぬことは言ふまでもないことである。

氣象學的狀態は次の三節に頒つてこれを述べることが出來る。

A. 正規狀態

これは登山中にあつて好晴に會つた際と、最近の降雪が餘り多量でない場合に好晴の續いた後とにシーロイファーの出會ふものである。雪は南面の急斜面に於ては日光の影響を受けて稍々クルステを形成するが、北面は未だ全くの粉雪狀態を保有してゐる。この樣な狀態に於てはシーロイ

ファーは第五圖第六圖に相當する斜面ならば何等の危險なく愉快な滑走をなし得る。第一圖より第三圖までは避くべきである。然し第三圖の傾斜度のたゞ僅かの面積である場合に限り滑走し得ることもあろう。（第九圖を參照せよ）

第四圖の斜面も通過し得らるゝが、雪崩の危險は總ての狀態の下に於て除外することは出來ない。第四圖、第五圖の點線は最もその有利な滑走路を示したものである。

B. 優良狀態

一月と二月に好晴が一週間ほど續くことが屢々ある。この時平原は常に厚き雪を以つて蓋はれて居るが、その雲の美しい海から高く峯々、頂はぬきいでゝ、空はよく晴れ、その山頂の晝間の氣温は遙かに隱影深い谷のよりは高いのである。日光と風とは雪面に作用してそのクルステの硬さを絕えず高めてゆく。それから二週間もつゞいて高き山々の上はこの飛び離れて優れた狀態なのである。勿論これらの狀態はスキー術ばかりを專心に研究してゐるシーロイファーを滿足せしめることは少ないかも知れないが、然しアルピニストはこの機會を利用して大規模の登山を試みれば夏に於ける位容易に成功することが出來るのである。

さてこの時のやうな狀態を以つてこの傾斜度標準圖を觀察すれば次の如く簡單に言ひ得る。第一圖より第三圖までは避くべきだが、それが短距離に限り第二圖第三圖の斜面も滑走出來ることがあらう。第四圖より第六圖までは何等の危險を顧慮する必要はない。

C. 不良狀態

思慮あるシーロイファーは天候の不良に際して登山を試みる樣なことは決してなからう。然し不幸にして不意に天候の激變に襲はれ非常な困難に陷り、避難の道を求めなければならなくせられることはよく起ることである。若し氣温が氷點に近づき、厚く新雪が降り、そして風が南或ひは西から吹いて來れば狀態は險惡となるものである。斯くの如きに際しては臆病午ら、第一圖より第四圖に至る斜面に相當するものはたとへ非常に狹い面積でもそれを避けなければならぬ。第五圖は滑走し得るが、それでも雪崩は事情により無いとは限らぬ。第六圖は新雪が深ければスキーは進むに勢力ばかり要るであろうが、何等の危險はないのである。

第七圖より第十二圖までは殆んど完全な地形の各種の傾斜を示したものである。これを第一圖より第六圖までの標準圖と比較して研究するがよい。次の第七圖以下に說明を加へる。

第七圖、下にゆくほど傾斜が減じて、つまり第三圖から第五圖までの傾斜に減じてゆく斜面である。第五圖の傾斜を有する下部の斜面それだけを考へれば總ての狀態の下に於て滑走し得らるゝが、雪の狀態不良になり、上部からの

雪崩に依つてそこが危險であることもまた考へる必要があるのである。

第八圖、幅約四百米突の第五圖の傾斜を有する斜面が第三圖の傾斜を有する二つの急な斜面に挾まれて居るのを示したのである。その挾まれた中央の緩傾斜面を横斷することはたゞ優れた狀態の時に於てのみ推薦し得るものである

第九圖、これは前圖と反對で中央に第三圖に相當する斜面が、二つのスキーで滑走し得る斜面の間にあるものである。不良の狀態に於ては避くべく、優良狀態に於てはツィクツァックに滑走し得る。併し最も安全な方法はA B の間の小さなグラートを徒歩でゆくことである。A B の線は最も傾斜の緩い線で凸面をなしてゐるので極めて小さな危險さへ避けることが出來るのである。

第十圖、溪谷。第二圖及第三圖に相當する斜面が溪谷の兩側をなしてゐる。谷底は第五圖乃至第六圖の傾斜を有してゐる。事情が良ければ溪流の走路に從つて滑走し得るが不良狀態に於ては雪崩が上方の山側から谷底全体を威嚇するであろう。

第十一圖、深く切り刻まれた谷、總ての事情の下に避くべきである。

第十二圖、小流の貫通する小谷、圖上左方の山側は第二の傾斜を有する急斜面をなし、小流の左岸（圖上では右手）は廣い第五圖乃至第六圖の傾斜を有する背狀地 Rucke をなしてゐる。谷底は避け、背狀地の中央——即ち小流とその背狀地の東側の岩壁との中間を利用するがよい。然し狀態不良となるや否や斯る地形は全然避けなければならぬ。比較的大なる雪崩は亦背狀地の方までも襲つて來て越ゆるのである。斯の如き場合には圖上左の山側の大なる斜面の上部に位する背狀地を利用することが最良の方策である。

スキー登山はこれをほゞ二つの種類に分類し得る。即ちその第一のカテゴリィに屬すべきものはその登山の目的たる山岳の頂點或ひは頂點へとつづく最後の登路をもスキーに依つて到着せられ得る——即ちスキーが全体的に使用せられ得る登山となすのである。然して第二のカテゴリィに屬するものは或る地點までスキーを使用してそれ以上は徒歩にて岩壁或ひは山稜を登攀して目的の頂點に達する——即ちスキーの滑走と岩、氷、雪の登攀とを組合せた所謂コンビナティオンの登山である。然してこのコンビナティオンに於てはその登攀距離を可能的に短縮して、可能的にその滑走距離を緩傾斜面に求めて短縮容易にすることがその根本的の原理である。勿論その徒歩登攀は登山術の一般の法則と S.A.C. の案内書によつて公にされた行程の記錄に依らなければならぬ。一体高き山頂や山稜は低き山岳地方に於ける程冬に於てもその狀態には變化はないのである冬季の雪は空氣の乾燥により是等の高距にては少しも固着

性を有してゐない故その山頂も山稜も風のために全くその雪を掃き除かれ、また殘るものは日光に融解されてしまつて、夏のそれと殆んど同じ狀態にあるのである。それ故コンビナティオンの登山法に於て最も注意して研究されるべきものはその登攀區域ではなくして、むしろその出發點からスキーを以つて達し得らるゝ終極點までの間の通過可能度、その登攀距離との比較、方向等の問題であるのである次に私は其等の諸問題を地圖に依つて探究してゆく研究に就て概略を述べることゝしよう。

地圖の上よりしてある地域のそのスキーでの通過可能問題を探究せんとするには通常先づ目的點(das Ziel der Tour)を與へることから始められる、然してシーロイファーはその目的點までスキーでゆくべき行路のうちで最も良き行路を求めることをなすのである。この最良の行路とは何であるかと言ふに、即ちその距離最も短かく、最も安全な(雪崩の憂ひ最も少き)そして最も容易なるを指すのである。然しこの要求は決して常にその全部が同時に充たされるものではないが、大体に於て最も自然的な解決は、その出發點と目的點との間に最少傾斜度を有する行路を當てることゝ言ふことに存するのである。これはシーロイファーが常に登山に際して用ゆる原理であるが、然し斯く言つたからとて最少傾斜度の線に對してたゞ地形的谷底道のみを價値ありとなすやうな單なる幾何學的感覺にのみ限定されてこの原理を用ひてはならないのである。多くの場合最も傾斜の緩やかな通過可能の線は眞の谷底の線——河流、溪流、或ひは氷河の走路——に合するではあらうが、亦時には稍々廣ひリュックの如き凸狀地形にある事も屢々あるのである。

以上の事は總ての場合に通過可能問題の研究に際しての最初の着眼點ではあるが、下から上へ(村から谷へ)行路を求めずに直接に山頂或ひは目的點に向ふこともある。(こゝで云ふ目的點には必ずしもその目的とした山頂其自身ではない——シーロイファーがその最後の徒步登攀を始めるために、スキーを其處に殘し置く地點、即ち Skidepat である場合もあることを知つて置かねばならぬ。)斯る場合には先づ地形がいづれの方面に最も緩やかな傾斜をなしてゐるかを探究し然る後この方面での最少傾斜度の線を再び定めるとよい。然しこの線は或ひは嚴密に前に述べたやうな通過可能のものでないかも知れない。即ち多少なりとも其れから離れて急斜面を避け岩及び總ての種類の障碍を回避するの止むを得ざるに至つたり、或ひは他のより好き行路に出づるために再び或る區域を登るやうになるかも知れないのである。又時には最も傾斜の少ない登路がまた最も近い愉快な行路と合することもあらうが、然し他の行路がより長いが、より安全に見た場合には安全なのが常に愉快の先きに選ばれなければならないのである。

また時には地圖はその最初の一瞥で山岳の形態に或る特徴を表はしてゐて、その目的點までの登行は甚だ容易になり、斯くして大体の登路は動かすべからざるものと定まつてしまふことがある。これは大なる氷河或ひは緩かな傾斜の谿谷が深く山体の中心に喰ひ入つてゐる場合に見られるのである。以下特殊なる地形に關してその地圖上に於ける研究との關係に就て述べてゆこう。

氷河は往時に於てはアルピニズムスの自然的通路であつたのである。最初のピオニールの多くは、氷河の走路に沿ふてそれを奥深く辿りつゝ目指す所の峯に辿りつく最後のクーロアール（Couloir）を頂上まで最も容易な登路として利用することを常に行つたのである。然るにその後のアルピニストは好んでこの習慣から脱して峻險な岩壁をその計畫の中にとり入れ、また彼等の大膽と技倆とに一層價値多く見ゐるやうなけはしい鋸齒狀のグラートを登攀するやうになつたのである。また未だスキーのアルピニストに紹介せられない、或ひはその價値の認められない時に於ては、冬季登山者は全くの徒歩か或ひはシュネーライフエンを以つて登山を試みたのであつた。然してその登山には常に氷河の最も距離の近い容易な登路は其處の粉狀雪の上の苦しい歩行を避けるたるに全然使用されなかつたのである。然しシーロイファーから見れば再び氷河はその最初のピオニールの時代の重大さに復活し得たのである。尚それのみではない。往時の最初の登山者は主として氷河の上部のみをその登路として利用してゐたのであつたが、現在は全くその全体に亘つてこれをシーロイファーは利用してゐるのである。すべて氷河は冬季に於ては雪を以つて平等に蔽はれ高くはフイルンフエルトより低くは氷河の末舌 Endzunge に至るまでその全体の走路は最もスキーの行路に適した狀態となるのである。氷河の傾斜は主としてスキーの滑走には適度である。そしてシーロイファーはまた氷河の上にあれば、山側の斜面の下部にあるよりは雪崩の危險は少ないことを得るのである。然しまたこれに對して氷河面に於ては他の重大なひとつの危險たるグレツチヤーシュパルテンが存在するのである。これはシーロイファーが氷河滑走に際して最も留意すべきことの第一のものである。また氷河は主としてその上部は凹狀面を有し、その下部は凸狀面をなしてゐる。この氷河の凹狀面はシーロイファーには實に好適の廣い滑走路である。またその凸狀面はこれに反して常にザイテンモレーネンに依つて氷河面の緣線は接觸してゐる結果多くのシュパルトが形成されてゐて危險である。併しこれもそのベルグシアルデ（氷河の打ち寄せる岸の崖の部分）と側堆石（ザイテンモレーネン）との間の稍々廣い窪谷 Mulde の谷底をシーロイファーは愉快な容易な滑走路となして、その氷河面の危險を避けることが出來るのである。堆石の稜

赤澤岳の下より鎗を望む　松方義三郎

Kamm はまたその高き山稜の如く雪がなくて裸出してゐるものが多い。故に氷河面も窪谷も共に危険でスキーの滑走に不適當と認められた時はこの稜をシーロイファーは徒歩でゆく方法をとることが出來る。然しすべてこれらのことは地圖上に於てはそれをよく知ることは出來ないのである故にシーロイファーはその行路を定めて後も尙この氷河の下部に於ける側堆石、窪谷、末舌、の狀況を注意する必要があるのである。

溪流をシーロイファーが地圖上に於て研究するに際してはまた地圖は大なる援助とはならないのである。然し溪流のスキーでの滑走可能度は主としてその時期に依つて影響されるのである。即ち冬季の終りより春季の初めに於てすべて溪流のその表面は硬き凍雪にて蔽はれるのである。これをシーロイファーは Reen と稱してゐる。春季の融雪期に於てはこの「海」の平等に溪流面を蔽うた雪面の下にも危險が潜むやうになるから注意されねばならぬものである。然しシーロイファーは可能的この溪流の「海」を行路とすることはすべての點に於て有利である。然し乍らまた溪流は必ずしも常に「海」を形成するものではなく、時には甚だ深い急峻な岩壁より成る峽谷 Schluchtn をなすこともある。こゝに於て地圖は全くその通過可能問題に對して說明を與へることは出來ないのである。然し多くの場合、小さな側流の上部を形成する峽谷は深き積雪にて埋沒されてゐる故にスキーにて滑走し得る場合もあるが、その谷底面が急傾斜なる時に於ては、その谷底が上部よりの雪崩の通路 Lawinezug となる場合もあるのである。然しこの雪崩は溪底の長き範圍に亘つて谷底を埋めるのである故、雪崩の生じた後その表面を新らたな積雪が蔽つて下層面に固着した場合には何等の危險なくこれを利用することが出來るのである。實にシーロイファーのとるべき行路に對してその總ての場合、總てを支配するものは傾斜度である。故にシーロイファーは最初地圖に依りてその峽谷の傾斜度を知りそれに近づいてその雪質の狀態を探査して始めてその通過可能の如何を判斷するのである。

岩石區域 felsige Gebiete と一般に稱せらるゝ地域は氷河面に形成せられた岩石の凹凸の突起のある地域やカールフエルト Karrfeld の稍々凸面狀地を謂ふのである。然し此等の地域に對しては地圖は多くの場合たゞ水準曲線のみを畫いてあるのみである故に、それに依つてはその地形の通過可能度を全然確立せしむることは不可能であるが、冬季の終末に於てはそれらの地域も全く堆雪のために平坦面となされる場合が多い故にこれはさのみシーロイファーの行路問題に對しては重大視されないのである。

皺地 Gebueschzonen は多くシーロイファーの行路に對して障碍をなすものである。然し地圖よりしてその樹木の種類と森林の稠密度に關しては何等の結論も得られないので

ある。縱(タンネ)は多く非常に密生してゐるから、それの中を通過することは林道のない限り避くるが有利である。Grauedund (2) 地方、アルペンの南部に多き落葉松(レルヒ)の森林はその密度は縱よりも非常に稀薄である故、常に容易に時にはまた非常に興味ある林間滑走をそのうちに行ふことが出來るのである。森林はシーロイファーに對してはその滑走の障碍をなす一面、他に於て雪崩に對して最もよい堤防であり、自然的避難所である。故にシーロイファーは常に雪崩の危險を免れさうにもないやうな急峻な裸出した斜面を通過せざるの止むなきに到つた時にはこの森林を求めて横斷すればその危險は免がれ得るのである。

吾々はその目的とする地域に對して最も傾斜度の少い線を決定すれば、それで大体にてシーロイファーに與へられた通過可能の問題に最も簡單にしてまた最も自然的な解決を得る。行路とは、谷の奥の最後の村から、雪崩の危險のない幅廣い谷の溪流に沿ふてその岸の小徑の雪面を進み、次第にそのゼーンから氷河に入り、緩やかなそのツウンゲ、窪谷から更に氷河の緩やかな傾斜を有つた、シュバルテンの少ない表面を登つて終ひに目的とする山頂、またはスキー置場 Skideplat に到るものである。勿論この行路のうちには多くの場合その氷河の上部、フィルンの上、或ひは高峯につゞく山稜の麓に建てられた D.A.C. 其他のクルブヒュッテを利用することが出來るのである。然してシーロイファーの利用せんとする氷河は常に山脈の鞍部(ゼッテル)から美しい二つの山塊の間を下方に流れて規則的な餘り狹ま過ぎない谿谷に沿ふて漸次に主谷に引き込まれて居らなくてはならないのである。然るに時には山脈構成上にある特徴を有するものがあつて、これに依りシーロイファーは最少傾斜度の線から避けなくてはならぬことがあることは既に前述するところである。即ちこれには尙他に原則があつてこれが道程方向の選擇を決定することがあり得るのである。この原則とは地形の總体的方向の決定である。こゝに於て如何に氣象的條件が地形的條件に關聯せるものなるかを私は簡單に示すこゝしよう。すでにシーロイファーはその雪質の研究に於て北面東面の雪質が常に南面西面のそれに優れてスキーに適當な雪質を保有する狀態にあることを知つてゐるであろう。この事實は風に曝露せられた山稜に於てもまた風の當らない深い谿谷に於ても眞實である。たゞ谿谷には山稜に比して著しく雪崩の危險が多いのである。

こゝに於てアルピネシーロイファーは谷筋に依るか山稜によるか何れかの方法によつてその目的とする山頂に達せんとするかを豫め決定せねばならぬ。ある山岳に依ると冬季にはこの谷と山稜のうち何れか一本の通過可能の登路しか求められないものがある。この樣な時には最後にスキー

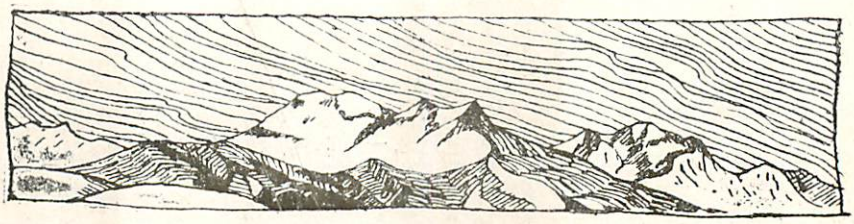
を残して登攀する地點を決定するのにその全登山計畫を向けることゝせねばならぬ。然しこのやうなたゞ一本の登路しかないと言ふ山岳は瑞西には極めて稀れでその多くは多數の種々なる登路に依つてその山頂に達せられるのであるその場合に於ては、最後の徒歩登攀の部分は容易ではなくとも、スキーにてゆく行路の全体が最も容易であるところ[illegible]路を選ぶのが最もコンビナティオンの原則に適合した方法である。また徒歩登攀の部分が山稜と山腹と二つある場合には常に山稜[illegible]つてその登路とすることの有利なることはすでにアルピニスト[illegible]出せる原則ではあるが、更に二つの山稜の何れかを選ぶ場合には[illegible]はそれより容易なるものを選ぶは勿論であらう。然して更にそ[illegible]二つの山稜が同程度の場合に於て始めてその方向のより有利なも[illegible]ることに歸着するのである（南、南西、南東の順序に選ぶことが最も冬季の山稜に於ては有利である。）

然しこの山稜の方向決定の問題はコンビナティオンの場合に於ては最も終りに近く考察すべき種類に屬すべきものでなくてはならぬ。何故なれば既に前に記せる如くこの山稜の方向決定の問題は冬に於ては絶頂、山稜は總て風に曝露されて、その風の影響は日光の影響より餘程著しいことよりその重要さは極めて少なく、常にスキーの行路に從屬すべきものであるのである。然しこれが山稜でなくて山腹或ひは急斜面の場合にはこの方向問題も餘程重大な意義を有することゝなり、アルピニストは北面が硬きクルステにて蔽はれ、且非常に寒冷な際にはそれを避くるを以て最も良策とすべきである。

斯くの如くシーロイファー、アルピニストはこゝにひとつのスキー登山を計畫せんとするに際しては、以上の地圖に對する諸原則を適用しつゝ且それに總て必要な他の條件をも考慮し乍ら連結せしめつゝ地圖の上で、その行程を定めることが出來るのである。若し一度地圖を正しく理解し得るやうになつたならば自分の眼には地圖は立体的浮彫となつて提供されるのである。故にシーロイファーは前述の地圖に於ける諸原則並に他の諸條件に依つてその危險なる斜面を避けてゆけば演繹的に最も安全なそして最も愉快な行路を選び出すことが極めて容易に出來るのである。

（Marcel Kurz: Wie liest der alpine Skiläufer seine Karte? Jahrbuch S.S.V. 1919）

附記　上掲せる一文は先に本誌上にも掲載せらしことのある Marcel Kurz 氏なる S.V. の一九一九年度年報に發表せしその研究の概略を記したものであり。然してその研究は氏の專門的方面（クルツ氏は現在瑞西測量局の測量技師であると共に第一流のアルピニストとして、また著名なシーロイファーとして S.A.C. と S.S.V. の幹部をなしてゐる）なる地形學、地圖の研究よりして新登山法としてのスキー登山を精細に研究してその價値ある所を解明してゐるのであるが、それは氷河の地形圖、昔つて雪崩を惹起せしことのある斜面の地圖上よりの研究、純スキー登山とコンビナティオンの登山法との見地よりしての地圖上の山岳の類別等多くのものを含みて稍長きものである。然しここには只その根本的な部分のみを摘當に連結概括して一文となしたのである。故にその記述の不正確、意義不分明の點に就ては多くの不備あることを自認するものである。（大島亮吉）



冬の乘鞍岳から上高地へ

早稻田大學スキー部　高橋昂

一九二二、三、一八——三二
同行者　東條義人、大瀧泰次、永田弘

十八日松本から三哩、新村迄を電車で、他は自動車で島々に着したのは午前十二時、午後一時重い荷の上にスキーを背ひ、番所原へと進む。稻核から雪があるといふ話も、すつかりあてが外れた。此處から奈川渡迄は、絶えず水電工事の土工の群に目迎目送されて底氣味惡しいこと甚だしい。奈川渡からは道は急に惡くなり、大野川迄時々ナイに弱らせられた。背ふたスキーの苦になること甚だしく、幾度か重荷の爲めに急流に振り落されさうになる。奈川を出る時からの雨は、大野川口からは雪と化し寒氣は次第に增して行く。かくて大野川村に着した時は日もとつぷり暮れて居た。當夜村では古風な結婚式の最中であつた。そして結婚と雪に就いて當村の面白い話を聞いた。

十九日、雪が靜かに降つてゐるので、誰も起き樣ともせず、無言のまゝ障子の外を眺めてゐる。(氣温攝氏零下二度)十時半朝食を濟まし一里の番所へと十二時出發した。番所は一面の雪。夕食迄間もあるので、村人自慢の于滝(ヒルタキ)へ行つて遊んで來た。三時頃から空は拭はれ、乘鞍は美くしい肌を惜しげもなく現はして、スキーランナの心を引き立てる。宿の婆さんが「今迄大部荒れたつら明日は大丈夫だあゝ」と變なアクセントで元氣を添へてくれる。

二十日、午前四時月光を浴びて出發。滿天の星は美くしく、氷の樣に澄んだ寒空に冴ゑ

性を有してゐない故その山頂も山稜も風のために全くその雪を掃き除かれ、また殘るものは日光に融解されてしまつて、夏のそれと殆んど同じ狀態にあるのである。それ故コンビナティオンの登山法に於て最も注意して研究されるべきものはその登攀區域ではなくして、むしろその出發點からスキーを以つて達し得らるゝ終極點までの間の通過可能度、その登攀距離との比較、方向等の問題であるのである次に私は其等の諸問題を地圖に依つて探究してゆく研究に就て概略を述べることゝしよう。

地圖の上よりしてある地域のそのスキーでの通過可能問題を探究せんとするには通常先づ目的點(das Ziel der Tour)を與へることから始められる、然してシーロイファーはその目的點までスキーでゆくべき行路のうちで最も良き行路を求めることをなすのである。この最良の行路とは何であるかと言ふに、即ちその距離最も短かく、最も安全な（雪崩の憂ひ最も少き）そして最も容易なるを指すのである。然しこの要求は決して常にその全部が同時に充たされるものではないが、大体に於て最も自然的な解決は、その出發點と目的點との間に最少傾斜度を有する行路を當てることゝ言ふことに存するのである。これはシーロイファーが常に登山に際して用ゆる原理であるが、然し斯く言つたからとて最少傾斜度の線に對したゞ地形的谷底道のみを價値ありとなすやうな單なる幾何學的感覺にのみ限定されてこの原理を用ひてはならないのである。多くの場合最も傾斜の緩やかな通過可能の線は眞の谷底の線――河流、溪流、或ひは氷河の走路――に合するではあらうが、亦時には稍々廣ひリュックの如き凸狀地形にある事も屢々あるのである。

以上の事は總ての場合に通過可能問題の研究に際しての最初の着眼點ではあるが、下から上へ（村から谷へ）行路を求めずに直接に山頂或ひは目的點に向ふこともある。（こゝで云ふ目的點には必ずしもその目的とした山頂其自身ではない――シーロイファーがその最後の徒步登攀を始めるために、スキーを其處に殘し置く地點、即ち Skidepot である場合もあることを知つて置かねばならぬ。）斯る場合には先づ地形がいづれの方面に最も緩やかな傾斜をなしてゐるかを探究し然る後この方面での最少傾斜度の線を再び定めるとよい。然しこの線は或ひは嚴密に前に述べたやうな通過可能のものでないかも知れない。即ち多少なりとも其れから離れて急斜面を避け岩及び總ての種類の障碍を回避するの止むを得ざるに至つたり、或ひは他のより好き行路に出づるために再び或る區域を登るやうになるかも知れないのである。又時には最も傾斜の少ない登路がまた最も近い愉快な行路と合することもあらうが、然し他の行路がより長いが、より安全に見いた場合には安全なのが常に愉快の先きに選ばれなければならないのである。

渡つてゐる。やゝあつて西空の月に極く薄い傘が懸つてゐるを發見した時には、暴しの前兆を氣にし出した。白樺林中の黎明、旭光に赤らむ雄大な山頂、そこには言ひ知れない大自然の魅力がある。作場小屋もすぎ大權現の大鳥居からは昨夕見定めた方向と夏の記憶を辿つて、十町近くの針葉密林の背を上り盡し、見通しのきく一高點に着した時は九時であつた。此の頃から空は次第々々に乳白色に變り初めて來た。（氣温攝氏零度）食事をとり十時出發、山頂を望んで眞西に、左に〳〵と針葉樹林の急な右山の腹を縫ふて森林を越えたのは十二時五分すぎであつた。もう此の時は暴風雪と化し、一步も前進し得ないので殘念ながら引き返すことにした。森林中の滑走は暖氣にも似ず辷りよく、札幌附近の嚴冬を思ひ出さずには居られない。途中要所々々に目標を付けながら下つた。大權現の大鳥居からは雨で、雷が時々右手の谷から響いて來る。作場小屋でゆつくり食事を終へて宿に歸へつたのは四時をすぎたばかりであつた我等が姿を認めるや今迄見もしない人々によつて迎えられた。その時出發時間からして歸宅の遲いのと、天候其の他から死と推察し會議の眞最中であつた。涙に潤んだ目で迎えられた時は、その純な熱情に感極つて感謝の語に窮してしまつた。憂から喜へ、談話は次から次へ、その周到な注意態度に村人も驚いてゐた。

廿一日、暴しは少しも衰へないばかりか、雨は雪と化し夜に入つて益々劇しい。

廿二日、雨戸を打つ吹雪の音に、外を眺める元氣はない夕方から雪は止み、夜に到つて一寸星を見出したが、間もなく消え去つた、

廿三日、雲は低く風は少しも衰へない。見張りは絶えず不愉快な報告をもたらす。床の中からは風の音に神經を尖らせて、今日もだめかとの歎聲が發せられる。十時頃から急に霽れ、山頂は嚴そかにスカイラインを劃してゐる。森林帶以上は猛烈な雪煙りが渦卷いてゐる。上空は劇しい風らしいが、もう時間は遲い。此のチャンスを逸した時の無念さ。夕方から又空模樣が變つて來た。氣温は高い。三月の此の頃の樣に變り易い時は、村人にも判定し得ないので一寸でも見込があつたなら、森林帶迄行つて見ることにした。廿四日、雪はチラ〳〵降つてゐるが、靜かな朝だつた風さへ出なければ大丈夫といふので、三時半提灯を頼つて進む。明け方から雪は止んだ。作場小屋からは時間短縮上海豹皮を用ひ廿五と同じ處を進まんとしたが、スプールは勿論、折立てた多數の目標さへ見出せない。八時廿分先日大目標を作つて置いた處から、森林を越えピークへと進む間もなく又降りだしたが勇氣を鼓して進む。進むにつれて風は增し、遂に大吹雪と化し、まともに吹きつけられては目も開き得ない。風は募るばかり、手指の感覺は次第に鈍つて來り再度の下山を餘儀なくされた。振りかへれば、今

渡つてゐる。やゝあつて西空の月に極く薄い傘が懸つてゐるを發見した時には、暴しの前兆を氣にし出した。白樺林中の黎明、旭光に赤らむ雄大な山頂、そこには言ひ知れない大自然の魅力がある。作場小屋もすぎ大權現の大鳥居からは昨夕見定めた方向と夏の記憶を辿つて、十町近くの針葉密林の背を上り盡し、見通しのきく一高點に着した時は九時であつた。此の頃から空は次第々々に乳白色に變り初めて來た。(氣温攝氏零度)食事をとり十時出發、山頂を望んで眞西に、左に〳〵と針葉樹林の急な右山の腹を縫ふて森林を越ゑたのは十二時五分すぎであつた。もう此の時は暴風雪と化し、一歩も前進し得ないので殘念ながら引き返すことにした。森林中の滑走は暖氣にも似ず辷りよく、札幌附近の嚴冬を思ひ出さずには居られない。途中要所々々に目標を付けながら下つた。大權現の大鳥居からは雨で、雷が時々右手の谷から響いて來る。作場小屋でゆつくり食事を終へて宿に歸へつたのは四時をすぎたばかりであつた我等が姿を認めるや今迄見もしない人々によつて迎ゑられた。その時出發時間からして歸宅の遲いのと、天候其の他から死と推察し會議の眞最中であつた。涙に潤んだ目で迎ゑられた時は、その純な熱情に感極つて感謝の語に窮してしまつた。憂から喜へ、談話は次から次へ、その周到な注意態度に村人も驚いてゐた。

廿一日、暴しは少しも衰へないばかりか、雨は雪と化し夜に入つて益々劇しい。

廿二日、雨戸を打つ吹雪の音に、外を眺める元氣はない夕方から雪は止み、夜に到つて一寸星を見出したが、間もなく消ゑ去つた、

廿三日、雲は低く風は少しも衰へない。見張りは絶ゑず不愉快な報告をもたらす。床の中からは風の音に神經を尖らせて、今日もだめかとの歎聲が發せられる。十時頃から急に霽れ、山頂は嚴そかにスカイラインを劃してゐる。森林帶以上は猛烈な雪煙りが渦卷いてゐる。上空は劇しい風らしいが、もう時間は遲い。此のチャンスを逸した時の無念さ。夕方から又空模樣が變つて來た。氣温は高い。三月の此の頃の樣に變り易い時は、村人にも判定し得ないので一寸でも見込があつたなら、森林帶迄行つて見ることにした。廿四日、雪はチラ〳〵降つてゐるが、靜かな朝だつた風さへ出なければ大丈夫といふので、三時半提灯を頼つて進む。明け方から雪は止んだ。作場小屋からは時間短縮上海豹皮を用ひ廿日と同じ處を進まんとしたが、スプールは勿論、折立てた多數の目標さへ見出せない。八時廿分先日大目標を作つて置いた處から、森林を越ゑピークへと進む間もなく又降りだしたが勇氣を鼓して進む。進むにつれて風は增し、遂に大吹雪と化し、まともに吹きつけられては目も開き得ない。風は募るばかり、手指の感覺は次第に鈍つて來り再度の下山を餘儀なくされた。振りかへれば、今

來たスプールは早や見ゐない。目標を得難い此の地で、唯一の眺望を殺がれ道を逸した時は、非常な嚴肅と眞面目さを以て、不安の境を迷ふたが、間もなく目標は發見された雪の辷りは良く作場小屋迄一時間餘で來てしまつた。下界は日か照りながら雪が降つてゐる。

廿五日、昨夜からの雪も、午後から霽れ出した。吹雪に呆き〳〵してゐる皆の喜び方は、一方でない。乘鞍は夕靄の中に、紫黑色に、錯覺と思はれる程近く、大きく、聳ゐ立つてゐる。

廿六日、今迄にない寒い朝だ。(氣温攝氏零下十三度)今日も時間上、作場小屋から海豹皮を用ひた。森林中は消ゐかけた、廿四日のスプールを辿つて、前日よりは低い處から、急な右山を進んだ。針葉樹林もすぎ美くしい影のさした南向きのダケカンバの林に入つてから、急に雪が附きだした。そして針葉樹林の有難味を今更の樣に感じた。十時十分食事を終へ、防寒の備へをなし、赤旗を揭げ、ビリゲリー鐵を附して鞍部へと進む。男性美の穗高、槍は王座の殿堂のそれの樣に嚴かに聳ゐ、その下に燒岳が見にくい姿から猛烈な黑烟を吐いてゐる。十一時十分鞍部に着し、直ちにスキーを雪上に立てた。ステッキに縛り、赤旗を附しクリーバーに履き代ゐた。十一時三十分ロープを用ひてピークへと一直線に、十二時四十分遂に目的の山頂に達した。飛彈側からの强風に吹きつけられて、横に〳〵と二尺餘も延びた氷をストックで壞り、早大スキー部の板を針金で結びつけた。强風の爲め時々押し倒されそうになる。直徑二十里と稱せられる白山もすぐ近くに見え、淺間、妙高と眺望は非常に大きい。呼べば答へそうな、麗はしい御岳は、六月の富士のそれよりも尙ほ榮へある美を見せてゐる。防寒の準備があつても、鼻や頰は疼痛を覺え、長く佇立する事が出來ず十二時十五分下山した。(氣温攝氏零下二十一度)

廿七日、午後一時番所發菊屋(宿屋)前の峯を越えて白骨に向ふ。取付きの上りが非常にくるしいが、上りつめてからは尾根づたいとなり、急に樂になつた。下りは狹い谷で、ボーゲンも利かない。それに南向きの半分はクラストをなし、反對側は深雪なので、辷り惡いこと限りない。白骨に着したのは午後五時であつた。

廿八日、暴風滯在。

廿九日、出發が遲れて十時半であつた。夏小屋迄は夏道をたよつて進んだ。天氣はよく風は無く昨日の新雪が附着して大根スキーとなる。夏小屋からは梓子川溯(?)を右に見て、急な尾根を一直線に、安房の十國岳に出たのは午後四時だつた。硫黃の臭氣が鼻を衝く。食事を終つて安房平へと突進。降り口は心持がよかつたが、降るに從つて次第々々に、細く、深く、急になつて殆んど漏斗を縱斷した樣な谷であつた。そして幾度か此の危險な未知な谷を怪しんだ。キックターンすら容易でなく時々墜落する。五時やつと

冬の乗鞍岳　（高橋昂）

漏斗の口を出で森林中の一小澤を一直線に安房平にと直滑降。辺りは良く實に愉快な滑走を續けた。安房平から間もない夏道に出合ふた時、日は暮れ平湯の電燈が見へ初めた村の入口で橋が以前より上流に掛け代へられて居るのを知らなかつたので、一寸まごついたが、發電所の人の好意によつて川を渡り、宿に入つたのは七時であつた。

三十日、九時平湯發、今日も相變らず天氣がよく、氷につゝまれた岩の安房は、白玉の光を碧空に放つてゐる。その美くしさにしばし醉ひつゝも、あの山を越ゑた昨日の苦しみを回想したとき、思はずもほくそ笑まざるを得なかつた。十時半安房峠の上りについたが、夏と變つて急傾斜になつて居た爲め、案外時間を要し、十二時半やつと峠を乘越ゑた。中食後左山のブッシュを通つて細池に下り、白骨と平湯との分れ道から燒岳の尾根に取付き、燒の肩に出たのは午後三時であつた。雪は先日の噴出の爲め小石と灰で黑色だ。美くしい上高地は目前に靜かに眠つて居る。食事終了後、降りについたが、燒のミゾのため大分まごついたが此のミゾの梓川との合口から下つた。此のミゾは上からも越ゑられそうであつた。大きなスロープであつたが、燒石の爲め不快なこと甚だしく、之が粉雪ならと思はしめる五時半大正池に出で、上高地に着したのは七時であつた。此の時强力八人と九人のスキーランナ、案内者一人と二人都合二十人と云ふ大勢が來て居るのに出會ふた。それは後に聞けば槇氏等の一行であつた。

卅一日、常さんの厚意を謝し、九時降雪を冒して德本峠にと向ふ。暖氣の爲め辺りの悪しいこと甚だしく德本の澤に入つた頃から雨雪と化した。雪はスキーに着いて雪面よりも高くなり、ジックザックが容易でない。三四歩毎に杖で雪を拂ひながら進む。エッジなどは全くないと同樣だ。途中右側から二三大きな雪崩が出て居た。十二時やつと德本峠への急な澤と、水殿川の方への澤との合口に着し、中食を終ると間もなく後から强力八人スプールを踏みながら上つて來た。しばらくして十二人のスキー隊が其の大道を上つて來て中食を取るのが見ゑた。此の處から一層急となり、德本に向いた方より水殿の方が良さそうなので、その方に進む。雪崩を氣にしながら靜に一歩一歩と一直線に上つた。それは無謀の樣ではあつたが、此の場合ジックザックで、雪面より高いスキーで上るよりは、遙に樂であつたかくて水殿の上に出て一寸尾根を傳つて德本に出たのは一時半であつた。强力はやはり我等の跡を踏んで來た。スキーの雪を取つてしまつた時には强力等は脫兎の如く急傾斜を下つて居た。それを忽ち追ひ越して後へに、鱒留から十町餘の處迄降つた。峠の頂の雪は此の地では雨であつた。スキーを肩に四時半島々着。（終）

ハルツ紀行

ハイネ作
青田周川譯

叙情詩人としてのハイネは獨逸文壇―引いては歐州文壇に於いて獨歩の地位を占めてゐることは周く人の知るところであるが、其數多い著作の内一八二六年に發表されたハルツ紀行(Harzreise)は詩人が散文的作品の内でも頗る特色に富んだものである。眼前に展開する大自然をまともに見て、それを清新な筆致で描寫して行きながら、所々道草を喰つては耳目に觸るゝ山村の風物を紹介するのに、諷刺、諧謔、皮肉、反語などを巧みに織り込んで自分の所見を發表するといふやり方である。詰り自然を描寫する邊りはロマンティクの濃厚な叙情詩人の面目が躍動してゐるが、其の間から、ちよい〳〵人の悪い、皮肉屋のつむぢの曲つた、にくさげな顏が覗き込んでゐるともいひ得る。何ぢろ凡人の手腕ではない。從つて是れを忠實に邦語に譯する事は予の如きぼんくらには殆んど―いや正直のところ隱語隱喩の如き扱ひ方を譯することになると全然不可能な事だ。それで此の誌上では紀行の本筋に餘り關係のないところや、如何にもこちたい比喩や諷刺などは遺憾ながら割愛して、讀者にも譯者にも都合のいゝ所だけを譯すことにした。併し讀者諸彦の内で原文の妙趣を味ひ度いといふ人達には予はいつても喜んで研究の友であり度い。猶ほ括弧中の文字は譯者が老婆心から附け加へたものである

腸詰と大學とで名高いギヨッティンゲン(Göttingen)町はハノーウエル王の配下で、民の竈(Feuerstelle)は九百九十九あつて、(一九〇〇年の調査によると歩兵第八十二聯隊を加算して三万〇二百三十四名の人口を有してゐる)色々な宗派の會堂が幾つかと、斎院一つと、天文臺一つと、學校の監禁所(當時は學校に專屬の監禁所があつた)一つと圖書館一つと、ビールのおひしい町役場の地下食堂一つと

がある。町の傍を流れてゐる川はライネといつて、夏は水浴ができ、水は冷たく、川幅は所々大跨に一と跳び跳んで向ふ岸へ渡れる樣なところもある。町そのものは美しい。そして一旦此の町からほかに移ると、懐しみの出て來るところである。

ギヨッティンゲンに住んでゐる生物を大別すると、大學生、教授、町人、家畜の四つになるが、これとて嚴格な分ち方ではない。その内で家畜は一番有名である。學生や教授、助教授の名前を一々ここに書き立てるのは煩はしいしまた一々の名前を私は記憶してもゐない。そしてまた多數の教授連の内には全然名の知れてゐない人達も澤山ある。ギヨッティンゲンの町人の數たら莫大なもので、濱の眞砂……もつと適切には濱の汚物といふ方がよろしい。全くのところ毎朝々々町人どもが穢い顔に白い勘定書を手にして大學の裁判所（當時は大學に專屬の裁判所があつて學生の言行を裁いた）の門前にずらりと植え付けられた樣に並んでゐるのを私は見ると、其の都度神樣がどうしてこんなに多くの無賴漢のみをお造りになつたのかと、其の御意の程を理解することができなかつた。

私がギヨッティンゲンを立つた時はまだ朝大變早やかつた。そして學究某氏の如きは確かにまだ床に入つてゐて例の如く夢路を辿つてゐるのだ。彼は美しい花園をぶらついてゐる。そこの花壇には古今の拔萃妙句の書いてある眞白な紙片が幾つも地に生ひ、日に照らされてきら〳〵光つてゐる。そして彼はその紙片をそちこち幾つとなく摘み取つて、それをやうやつと新しい花壇に移植する。鶯はいとも可愛らしい聲を張り上げて學究先生の古る臭い心を喜こばすのである。てな事を彼は夢みてゐるのであらう。

ウエエンデ（Weende）（村名）の門の前で私は土地の小さな小兒達二人に出會つた。その内の一人は他の者にいふには、「テオドルとおれアもう遊ばねねど、あいつ昨日 Mensa の二格を知らなかつたからな。」（Mensa（机）の變化はラテン語の一番初めに習ふ。だから Mensa を知らないといふのはイロハのイの字を知らないと同樣な意味に用ひられる。）私はこの事を世間に紹介しなければならない。いやそれどころではない、私はこれを此町の標語として直ぐにも門柱高く書きつけさせ度い。なぜなれば門前の小僧とやらで、此言葉は道學的なゲオルギア、アオグスタ（Georgia Augusta）大學の偏狹にして無味乾燥なノート、ブック自慢の特性を表はしてゐるからだ。

大路にはすが〳〵しい朝風が吹いて、鳥の歌も面白かつた。そして私の氣分も段々清新快活になつた。斯ういふ元氣付けは私には必要だつた。私は近來法典の厩（Pandekten Stall）（此語は大學を指して諷刺的にいふ）から外に出た事

はなかつた。そしてローマの懐疑論者達は私の精神を灰色な蜘蛛の巣で掩ふ樣に掩うて、私の心は利己的な法律組織の鐵の樣な章と章との間に板狹みになつた樣であつた。

ある木の下にやさしい心の戀人同志が坐つてゐた。それを私は手に手を取り合つてゐる法典の出版物（Korpus juris nsgalhe）（法典には結婚に關する條文があるから結婚の廣告とでもいふ心持ちを、も一つ皮肉つて斯ういふのでもあらうか）かと思つた。國道には人の氣勢がし初めた。牛乳賣りの女の子が通り過ぎた。驢馬追ひ共はその灰色な子飼ひの動物をつれて行つた。ウエエンデを過ぎると私は羊飼ひの男女に出會つた。これはゲスネル（Gessner 1730—1788 瑞西の牧歌詩人）の歌にある牧歌的夫婦ではなかつた。男の羊飼ひは大變親しけに私に挨拶した。こいふのはこの男も矢張り私同樣文士で彼の半年文庫中で折々私の事を書き立てたからだ。

時折り一頭立ての馬車が幾臺かごろ〳〵音を立てゝ通り過ぎた。馬車といふ馬車は休暇を利用して旅をするのか但しは學校を追ひ出されて永久放浪（サスラヒ）の旅につくのか、學生達でぎつしり詰つてゐた。斯ういふ大學町では學生の往來は絶ゑ間がない。三年目毎に學生の新時代がくる。それは人間の永劫の流れでそこには學期といふ波が一と波一と波と押しやつてゐるのである。そして古るほけた教鞭だけか此の全体の動搖の内に挨及のピラミッドの樣にしつかりと居殘る……只だ此の大學のピラミッドの中には何んの智慧も藏してゐないだけの違ひがあるのである。

ラウシエンワッセル（Rauschenwasser）（ウエエンデの大道から東方に通じてゐる道の名）の傍のミルテ（Myrte）の木の茂みの中から前途有望な（反語）若衆が二人馬に乘つて出て來たのを私は見た。水性の女が一人其の二人の若衆を國道のところまで案内した。女は物慣れた手付きをして、馬の痩せた後股を平手でぴしやり〳〵と打つた。そして一人の若衆が女の大きなお尻を後から鞭でちよい〳〵からかつた。すると女は高笑ひして、それからボーフデン（Boyden 只今は Bovenden）（村名）の方へ行つた。若衆達はニヨルテン（Zörten）（村名）の方へ馬を驅つた。そして才走つて（反語）大きな聲でごなりながら、可愛らしくも（反語）ロシニ（Rossini. 1792—1868 伊太利の作曲家）の歌を歌つた。『飲めよビール、可受い〳〵リゼよ。』此歌は暫らくの間、遠くの方で聞ゑてゐたが、やがてやさ男（反語）の若衆達の姿が見ゑなくなつて仕舞つた。こいふのはもと〳〵獨逸風にのろ臭い性質（たち）の馬だと思うてゐたのを彼等は恐ろしく拍車で追つ立てたり、鞭で打つたりして急がせたからだつた。ギヨッティンゲン程馬の皮剥ぎの多い所は何所にもない。そして私は体の利かない駄馬が僅かばかりの飼料を當てがはれて、汗みどろ今度の樣なラウシエンワッセルの乘手達に酷使されたり、或は學生を滿載して索いて行かねばならなか

つたりするのを見ると、其の都度私は『あゝ、汝可哀相な動物よ、お前の先祖は極樂で禁斷の燕麥を食べたに相違ない』といふ言葉に思ひ當るのであつた。

ニヨルテンの旅館で私はまた例の二人の若衆達に出會つた。一人は鰊のサラドを平らげ、他の一人は顏の黃色なフジア、カニナこいふ如何はしい女中と話をしてゐて、女中にお世辭の二つ三ついつてる内とう〳〵二人は摑み合ひの喧嘩をした。私はルクザックを輕くしやうとして、歷史付きの珍妙な青色のズボンをトランクの中から引き出してコリブリこいふ小さなボーイにやつた。年寄の内儀（おかみ）のブッセニアは私にバタ付きのパンを持つてきて、内儀は私を大變好きなのに私は偶まにしか此旅館に來てくれないといつて不平をいつた。

ニヨルテンを過ぎる頃、日はさら〳〵と空高くかゝつて私の頭を熱したので、頭の中の未熟な思想は殘らず熟し切つて仕舞つた。ノルトハイム（Nordheim）（村名）の料理屋の懷しい太陽の看板も捨てたものでなかつた。私はそこに這入り込んだ。晝飯はちやんと出來てゐた。料理は皆なおひしくて、ギヨッティンゲン大學の寄宿舍の鹽をしない揉皮の樣な干鱈に古い玉菜をあしらつたまづい賄を食べつけてゐる私には嬉しかつた。私は聊か胃袋を慰安した。ふと見ると同じ客部屋の一人の紳士が、二人の婦人を連れて出かけやうとしてゐるところであつた。此の紳士は綠色の服を着て、綠色の眼鏡をかけてゐた。そして眼鏡はその赤い酒醡鼻に綠の薄板の樣に光を投げてゐた。そして其樣子たら丸でネブカドネツア（Nebukadnezar）王（バビロンの王、治政六〇四——五六一）の樣だつた。傳說に從ふと此の王は其晩年森の獸同樣サラダより外何んにも食べなかつた相だが、此の男は丁度そんな風に見ゑた。綠の紳士は私にギヨッティンゲンのホテルを紹介して欲しいといつた。私は其の人に、ギヨッティンゲンへ行つたら、行き當りばつたり出會つた學生に、ホテル、ドウ、ブリユバッハ（Hotel du Brühbach）こいつてお訊きなさいと勸めた。一人の婦人は細君だつた。そしてもう一人は非常に大きな肥つた女で、一平方哩程な廣い顏の頰に、愛の神に供へる痰壺の樣な靨がある。下顎の肉が長く垂れ下つて、顏の不樣な繼續の樣に見ゑる。高く張り出した胸は糊でこわ〳〵したレースや鋸の齒型に花模樣の刺繍をした着物の襟で肩のあたりをぐるりと卷きつけてあつて、丁度塔壘や稜堡が砲臺の周圍を取り卷いてゐる樣だつた。そしてマセドニヤのフィリップ王（紀元前359—336）の云ひ草ぢやないが、驢馬に黃金を積み込んでやると、一ときたまりもなく陷落し相なあの砲臺のやうだつた。（金次第でどうともなる女の意）二人の婦人は全然反對な樣子をしてゐるのだ。細君の方はファラオ（Pharao 即ちパロが肥つた牝牛と痩せた牝牛の夢を見た話は舊約全書創世記第四十一章にあり）の肥つた牝牛の子孫だと

すれば、此の女は其の痩せた牝牛の種だ。痩せた女は顔中口ばかりで、口の左右に耳がある。胸はリウネブルヒに荒野の樣に情ない程荒れ果てゝ、煮詰めた樣な全身は貧乏な神學者の接待食事に等しかつた。二人の婦人はホテル、ドウ、ブリユバツハにも立派な客が泊るかと私に訊いた。私は正直にさうですと返事した。そして優しい(反語)此のクローバの葉(三人連れの意)が馬車に乘つて此所を出かけた其時私はもう一遍窓から挨拶した。太陽屋の主人はにやにや笑つた。多分ギヨツティンゲンの學生監禁所はホテル、ドウ、ブリユバツハといふ名がついてゐる事を知つたのかも知れない。

ノルトハイムを過ぎると、もう山路だ。そちこちに美しい峰が聳にてゐる。私の道で會つた人々は大方小商人であつた。また女の群にも出會つた。女達は銘々大きな殆んど家の高さほどな白い麻布で包んである箱を一つ背負つてゐた。箱の中には色々な吟鳥を捕へて入れてある。そして小鳥は絶にずちゆ〳〵囀つてゐて、背負つてゐる女もはしやいで跳びはねたり、おしやべりをしたりした。(未完)

彙報抄録

アクシデント

一八九七年(最初のスキーアクシデントがあつた年)から一九一九年までの二十三年間に於て一二一九名の夏季登山者と、一〇六名の冬季徒歩登山者とがアルプスで死んだ。

同じ期間にたゞ一一八名のスキーランナーが死し、そしてそれ等のうちただ一四人がハイアルプスで死んだのである。

此の二十三年間に調べられた一一八のアクシデントのうち尠くも九六名にたやすい山岳で起つたものである。それらのうち七四は雪崩によるものである。ハイアルプスでのアクシデントを加へて、雪崩は八六の犠牲を要求した。即ち此はスキーで死んだもの、三分の二を超にて居る。(Arnold Lunn: --Alpine Skiing at all heights and seasons 1921)

山岳スキーフイルム

最近、獨逸のエツセン市クルツプ・エルネマン會社より提供せられた二つの注目すべきフイルムがある。此は同國フライブルヒ市の山岳スキーフイルム會社の撮影になるものであつて、從來坊間に稀に見た短かいつまらぬものとは比較にならないものである。一は Das Wunder des Schneeschuhs (『スキーの神秘』と譯されてゐる。)であつて全五卷一万尺と號せられ他は Der Kampf um den Berg (『山岳の征服』と譯されて居る。)で同じく五卷、五千尺である。去る十四、十五の二日、東京基督教青年會館で東京スキー倶樂部及大日本体育協會主催の下に公開せられた。

「山岳美」の出版

日本アルカウ會(兵庫縣御影町)に於ては、今般内外の山岳、スキー寫眞を聚集し、之に昨年同會の催したる大阪中央公會堂に於ける山岳の大家の講演の記事を加へて、『山岳美』なる出版をせらるる由。

◇圏谷◇

例の活動寫眞は、大分、東京のスキー山岳家連中をさわがせた。何しろ相當な經費をかけて、やつたのであるから、そして、スキー登山の技術と、撮影の技術とが相まつて、生れ出たものであるだけに、多くのスキー家を啞然たらしめたのも無理はない。もうスキーがいやになつたと云ふ嘆息もうなづかれる。

けだし此のフイルムは日本のスキー界山岳界に大なる刺激を與へるものである。日本の、活動寫眞會社でも一つ大決心をしては如何であらふ。今迄は撮影しよふと云ふ樣な話は度々聞かされたが、三百尺や四百尺では全くお話にならない。桁が違つてゐる。常に乾燥した粉狀雪を保つ地方で、相當な時日と費用とをかければ可なりなものが出來ないことはないそうなれば先づ有名なる、犬スキーでも撮つてあはよくば獨換、ノルウエーあたりへ輸出するのもよかろふ。

スキー、スキーと云つてゐるうちにもう、暑さにたえられない時候になつてしまつた。今頃スキーなんて云つてゐると變に思ふ人もあろふが、而し決してそうではない。

英國のアーノルド、ラン氏はその近著に書いて居る。『スキーは一年中のスポートである。自分はいづれの月に於てもスキーを樂まなかつた月はない』と、それはアルプスへ出掛けて行くスキー家の誇りとする所であろふ。

而し考へて見ると一年を通して日本の土地から全く雪が消に去つたことはをそらくあるまい。

スキー家の精力と熱心とは滑走期を現在よりもつと長くし得ることは或る程度まで可能である。

夏季登山の時期になつた。スキー家に非ざる登山家が冬の間、をさへて居た登山慾を充足するときである。單に數的に盛んになるばかりでなく、質的にも更に一段の發達が望ましいことである。合理的登山法の行はるゝことを希望してやまない。(かの生)

禁轉載 本誌所掲の記事圖版を轉載せんとする方は必ず豫め本會に照會の上許諾を得られたし。

定價 金參拾錢

現金又は前金に非ざれば發送せず。六冊分前金拂込の方には送料を頂きません。前金切の際は其旨を包裝に記す。御送金あるまで配本を見合せます。

大正十一年六月十四日印刷
大正十一年六月十五日發行
(毎月一回十五日發行)

編輯兼印刷者 板橋敬一
發行者 加納一郎
印刷所 札幌區北一條西二丁目 札幌印刷株式會社
發行所 札幌區北三條西七丁目 山とスキーの會
振替口座小樽八四九五番